



「トピックス」多文化共生保育の最前線
連載 山梨懸人 水素燃料電池は暮らしを変えるか？

巻頭特集

グローバル山梨

「特集」

水素技術を

グローバル

国際展開

「やまなしから世界へ、水素の力で未来を拓く」。

山梨県が掲げてきたスローガンが、いよいよ現実のものになるうとしています。県は8月、グリーン水素に高い関心を寄せるインドに

総勢200人を超える訪問団を派遣。クリーンなエネルギーで水素を製造する

「やまなしモデルP2Gシステム」のインド展開に関する

基本合意書の締結という成果を挙げました。

また、10月には北杜市で

「富士ハイドロジェン・サミット2026」の開催を予定しています。

人材育成も含め、水素社会の実現に向けた

山梨の存在はますます高まっています。

グリーン
水素

人材

観光

女性
活躍

次世代
交流

山梨の製品がインドに貢献!?

訪問団は「大歓迎」を受けました。街じゅうに来訪を知らせる看板が立ち並び、市民から大注目です。

8月18日から6日間の日程で、主にインドのウツタル・プラデーシュ州（UP州）を訪問しました。友好交流にとどまらず、実益を伴う国際連携の具体化を図ることが訪問団の目的です。

具体的には、①グリーン水素②人材③観光④女性活躍⑤次世代交流をテーマに精力的な話し合いが行われ、合わせて六つの協力文書が交わされました。

とりわけ、グリーン水素分野では、山梨が世界に誇る技術のア

ピールに力が入りました。県が民間企業と共同開発した「やまなしモデルP2Gシステム」は、太陽光や水力などの再生可能エネルギーを活用してグリーン水素を製造します。世界最大の人口を抱え、大気汚染が深刻なインドにとって、国内で盛んな太陽光発電で生産するエネルギーを地元で活用できる魅力的な技術です。この技術をインドに展開することができれば、大手機械メーカーのカナデビアが都留市に建設する新工場から中核機器も輸出されることになります。それに伴って、周辺にある製造業がサプライチェーンを担うことになり、県内企業への大きな波及効果が期待されます。

インドでは今年2月、水素を高圧ガスでトレーラーなどにより運搬することへの規制が撤廃されました。これによって、インド国内での水素の普及に向けた基盤が整いました。山梨の水素技術売り込むチャンスが訪れているのです。

トルームがぎゅしりと人で埋まりました。デリー周辺にある大学もブースを構えて、日印の産学連携の可能性をプレゼンテーションしました。

今回の訪問に先立つ7月2日には、インド・ニューデリーで日印首脳会談が行われたばかりでした。会談後に公表された「日印首脳共同声明」には、山梨県が発起人となった「日印友好交流促進知事ネットワーク」の取り組みが明記されており、今回の訪問を後押しする形になりました。まさに地方の挑戦が、国家間の協力枠組みに発展したと言えます。

今回の200人を超える訪問団に加わっているのは、山梨県の職員だけではなく、県内外の企業に加え、「日印友好交流促進知事ネットワーク」に加わる静岡県からも参加がありました。また、13人の県内高校生が、現地の大学生らと交流しました。

8月19日には、デリーでUP州主催の「日印投資ミートینگ」が開かれました。ヨギ・アディティヤナートUP州首相をはじめ、複数のインド政府閣僚や経済界のリーダーら総勢約600人が参加する大規模なフォーラムです。ホテルの地下にある巨大なバンケッ

訪問先となった ウツタル・ プラデーシュ州とは



インド北部に位置し、歴史的・政治的に重要な役割を持っています。同国の州で最も多い2億4000万人を超える人口があります。ヒンドゥー教、仏教の聖地が集中していることでも知られます。世界的な歴史的建造物であるタージ・マハルがあるのもこの州です。近年はインフラ整備が進み、首都・デリーからほど近い「ノイダ地区」には、IT産業、電子機器製造、自動車産業などの集積が進んでいます。

日印協力して人材育成へ 「学生をサミットに 参加させたい」と意欲

すさまじいクラクションが鳴り響く渋滞を訪問団がバスで抜けると、広大な「ノイダ地区」が見えてきました。高速道路に牛がいるというインドならではの風景にも遭遇。大きなスタジアムもあり、建設中のIT企業の高層ビルもそびえています。地下鉄も建設中でした。急速な発展を目の当たりにします。

が盛んで、その電力供給量が期待されます。

また、この地区はインド有数の教育・学園都市としても知られています。多くの大学や技術系専門学校が集まっているので、人材育成を実施する上でも利便性があります。

訪問団は、「ノイダ地区」にあるガルゴティアス大学を訪問し、高度人材を確保する可能性について探りました。同大学は、約5万人の理系を中心とした学生を抱えるインド有数の私立大学です。AppleやNVIDIAなど世界的なIT企業に多くの人材を輩出していることで知られます。訪問団は、インキュベーションセンターや企業ラボ、AI研究施設などを見学した後、大学幹部とミーティングをしました。この大学では約3000人の学生が日本語の授業を選択しており、日本への就職意欲も高いそうです。

この「ノイダ地区」です。総合工業団地として開発中の「グレーター・ノイダ」は、全体が完成すると甲府市の2倍近い約400平方キロメートルの広さになるそうです。

政治・経済の中心であるデリー首都圏から東に車で1時間ほどの場所、大消費地の近くに位置します。さらに、開港したばかりの国際空港にも近い立地ということもあり、多くの日本企業が誘致されています。インドは太陽光発電

大学側から「10月の国際水素サミットに学生を参加させたい」という申し出があるなど、山梨の水素技術に対する関心の高さをうかがわれました。グリーン水素の社会実装には、技術開発に加え、それを担う技術者や運用人材の育成が重要であるとの共通認識を持つことができました。両者は、こうした人材育成も含めた連携の可能性について、今後も協議を継続していきます。

インド国内の水素需要の喚起や運用に携わる人材の育成も急務です。長崎知事は州のエネルギー大臣と面談し、UP州におけるパイロット・プロジェクトの実現に向けて協力していくことで一致しました。また、事業化に向けた課題であるパートナー企業の確保などについても認識を共有しました。こうした連携の第一歩として基本合意書を締結し、今後はプロジェクトの実現に向けた具体的な協議を進めていくこととなります。

県は高度理系人材の交流に関するMOU（基本合意書）を交わしました。あわせて、山梨大学はグリーン水素分野における連携の可能性を模索するL.O.（意向表明書）を締結しました。

ノイダ地区を訪れた翌日、訪問団はUP州の州都ラクナウに移動しました。訪問団を構成する各分野の代表が現地当局や企業と交流し、ビジネス機会の創出について協議を重ねました。水素分野に関しては、P2Gシステムのパイロット・プロジェクトが主な議題です。

将来的に、同システムの実機をインドで組み立てて、水素の製造を目指します。そのためには、イ

企業は、インキュベーションセンターや企業ラボ、AI研究施設などを見学した後、大学幹部とミーティングをしました。この大学では約3000人の学生が日本語の授業を選択しており、日本への就職意欲も高いそうです。



グローバルな環境での学びに関心

山梨県が直面している大きな課題の一つが「人材不足」です。インドの若い働き手が山梨に来て、経済・産業の一翼を担ってもらえないか。そんな可能性を模索することも今回の訪問団のミッションの一つでした。

「ノイダ地区」にあるガルゴティアス大学には看護学科もあり、介護人材の育成について意見交換が行われました。大学内の施設には、AR（拡張現実）技術を活用した先進的な学習環境が整っていて、県内の医療関係者を驚かせました。

実際、山梨県内の介護施設ではインドからの介護士が活躍しているケースもあります。さらなる受け入れの促進を目指して、県は同

大学と連携を深めていくことを確認しました。

訪問団に同行した13人の高校生は、同大学の学生と交流しました。大学生活について積極的に質問したほか、AIやアプリ開発の最先端技術の研究施設も見学し、グローバルな環境で学び働くことに

興味が尽きない様子でした。

高校生は州都ラクナウでヨギ首相を表敬訪問しました。「ドラえもん」の「うた」を披露すると、現地の高校生が「日本のアニメが大好きだから嬉しい」と感激した様子で話していました。

さらに高校生は現地の高校を訪問し、英語で山梨県をPRしたほか、物理の授業と一緒に受けるなど同世代での交流を楽しみました。

インドとの間では、今後持続可能な人材交流モデルの構築を急ぎます。来年度以降に相互に若者を派遣して、定期的な青少年交流プログラムを実施できないかを模索します。

人材を受け入れるばかりではありません。次世代を担う山梨の若者たちが外の世界を肌で知ること、グローバルな感覚を身につけることにつながります。訪問団に加わった高校生には今回の経験を持ち帰って広めてもらう役割も期待されています。

山梨の美しさをインドにアピール！

インドとの観光交流のさらなる

促進に向けて、訪問団は県内の絶景スポットを紹介する動画を放映し、パンフレットを現地の観光関係者に渡したほか、要人との面談では、たくさんの「富士山の写真」をプレゼントして山梨の美しさを

アピールしました。

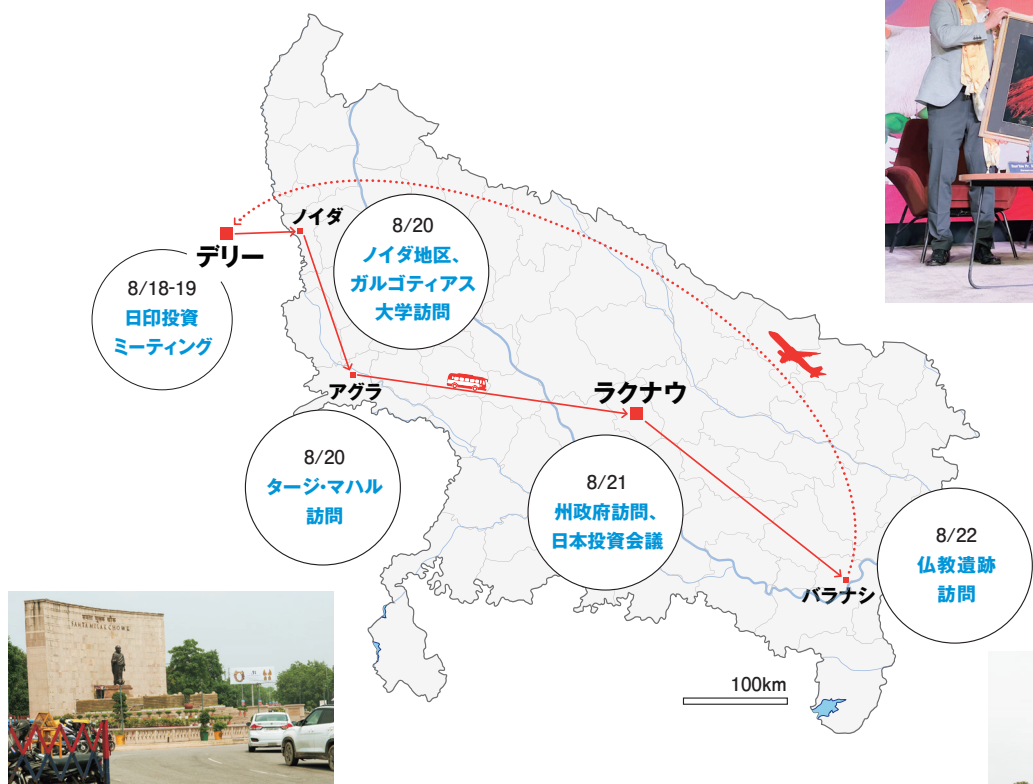
インドの旅行会社をはじめ関係者に山梨の魅力を直接体験してもらえば、観光需要の掘り起こしにつながります。そこで、「ファムツアー」と呼ばれる視察旅行を企画することなどを検討しています。

また、インドでは映画制作が盛んです。米国のハリウッドになぞらえて、「ボリウッド」と称されるほど多くの映像作品が毎年公開されています。山梨県の美しい風景がインドの映画やドラマに登場すれば、インドの人たちに強い印象を持ってもらえることでしょう。

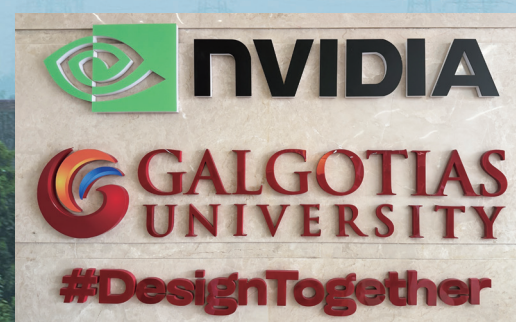
その作品が大ヒットすれば、「聖地巡礼」のような現象が起きて多くのインド人観光客を呼び込むことにつながるかもしれません。

UP州には世界遺産「タージ・マハル」があり、山梨県には富士山があります。インバウンドとアウトバウンドの双方が活性化するように未来図を描いています。

〔訪問団のUP州での行程〕



現地の高校生と交流した山梨の高校生



ガルゴティアス大学はNVIDIAに多数の人材を輩出している

国際水素サミットと 人材育成基盤「LIGHT」

水素社会の到来を見越した日本初の国際会議「富士ハイドロジェン・サミット2026」が
10月に北杜市で開かれます。8カ国(一覧表参照)の参加が見込まれ、
それぞれの地域の経験や課題を持ち寄って議論します。
共有された知見を蓄積し、
山梨を水素に関する「知の拠点」へと変貌させていきます。

なぜ山梨で、 なぜいま水素？

県内では米倉山(甲府市)でグリーン水素の製造の実証が進み、社会実装段階に至りました。つく・ためる・はこぶ・つかうという一連のサプライチェーンが形成されています。山梨は世界のトップランナーとして海外からも注目を集めています。

世界を見渡せば、中東地域の紛争など、エネルギーの安全保障が待ったなしの状況です。エネルギーを自ら作り出して危機に備える必要は高まっています。水素社会の実現は、日本全体の安全保障にもつながるのです。

今回のサミットが構想する将来の水素社会モデルは「大動脈」と「毛細血管」に例えることができます。日本の場合、「大動脈」として国が想定するのは、太平洋沿岸地域です。水素をエネルギー源とする燃料電池トラックの輸送ルートを構築し、東京や愛知、兵庫や福岡などに水素の供給拠点を重点的に整備します。需要が高まれば、低コスト化が期待できます。

一方で、「毛細血管」にあたるのが山梨のような内陸部の地域です。太陽光や水力などの再生可能エネルギーを活用し、水素を地域で生産して地域で消費する「地産地消」を目指します。

大規模集中と地域分散という両輪が相互に補完する展開が、水素社会実現へのステップとなります。

10月の国際水素サミットでは、この展開を見据えた具体的な課題を話し合います。

初日(19日)は、専門家らを中心に分科会を行います。本会議を行う20日は、まず長崎知事が登壇します。ほかの地域の特性を踏まえて、どのように連携して水素社会を実現していくかを掘り下げる予定です。

海外先進地域からは、各地の経

験や浮かび上がった課題の紹介があります。

特別講演として、2025年にノーベル化学賞を受けた北川進・京都大学特別教授が登壇します。受賞理由の「金属有機体の開発」は、水素の貯蔵に応用できる研究です。会議の最後に、「将来への課題整理」を行います。大きな課題の一つが人材の育成です。県はこれに対応するため、産学官が連携する水素コンソーシアム

「LIGHT」を立ち上げました。

社会実装の先進地 山梨で人材育成

「LIGHT」(Leading Institute for Green Hydrogen Technology)は、グリーン水素に関して国内外のさまざまな機関と情報交換しながらシステムを運用する人材の育成を担います。

山梨では「やまなしモデルP2Gシステム」が稼働していま

す。ここに国内外の技術者らを招いて実践的にノウハウを身につけてもらいます。

さらに、燃料電池を始めとした水素技術研究の先進的な拠点である山梨大学や「やまなしハイドロジェンカンパニー」、P2Gシステムの中核装置である水電解スタックの製造工場を持つカナデビア、水素の運搬ノウハウが豊富な巴商会などもコンソーシアムに参加しています。

山梨で学んだ技術者が自国にノウハウを持ち帰って「やまなしモデル」が世界に広がれば、運用技術費が県の収入となり県民の皆さんに還元されることが期待されます。

国際水素サミットの参加国(予定)

-  アメリカ(カリフォルニア州フェアフィールド市)
-  インド(ウッタール・プラデーシュ州)
-  オーストリア(ニーダーエスタライヒ州)
-  カナダ
-  韓国(忠清北道)
-  フィンランド(ユバスキュラ市)
-  ブラジル(ミナスジェライス州)
-  ベトナム



[知事登壇]
水素社会 実現への連携
長崎幸太郎 知事



[特別講演]
ノーベル化学賞
北川 進 京大特別教授

主なイベント(予定)



オンライン
視聴者登録は
こちら

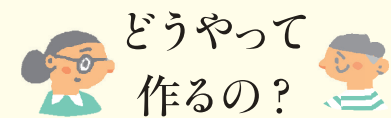


イベント詳細は
こちら

暮らしに水素を

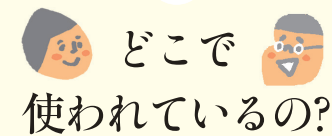


水素を知る①



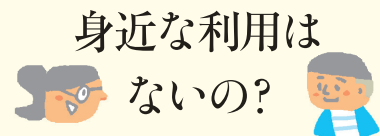
どうやって作るの？
水 (H₂O) に電気を流すと水素 (H₂) と酸素 (O₂) に分解されます。山梨県にある豊富な水と、太陽光や水力といった再生可能エネルギーで発電した電気を用いて製造されたものが「グリーン水素」と呼ばれています。県内では甲府市の米倉山や北杜市の「グリーン水素パーク-白州-」で製造されています。

水素を知る②



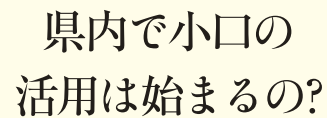
どこで使われているの？
例えば、サントリー天然水 南アルプス白州工場 (北杜市) で天然水を殺菌する工程の熱源や、化粧品大手のコーセーが南アルプス市に新設した工場の燃料として使われています。農業用ハウスの加温機に活用して「カーボンフリー農業」を実現する取り組みも進んでいます。

水素を知る③



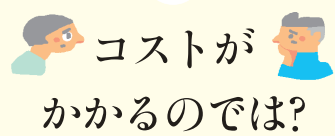
身近な利用はないの？
そんなことはありません。最近では UCC 上島珈琲が「水素焙煎コーヒー」を発売し、セブンイレブンでも買えるようになりました。さらに、ボンベなど小口の充填設備を整備して、ホテルや観光施設、飲食店など身近な施設で利用してもらう構想を進めています。

水素を知る④



県内で小口の活用は始まるの？
現在、北杜市の「丘の公園」に中継拠点を設け、清里エリアにあるホテルや観光施設で利用してもらうための基礎調査を実施しています。具体的には、水素調理器で料理を提供したり、小型燃料電池でイベントの照明に活用したりするなどの構想があります。

水素を知る⑤



コストがかかるのでは？
グリーン水素の製造コストが既存燃料に比べて高いことは確かです。しかし、水素社会推進法に基づいて、石炭や天然ガスなどの既存燃料との価格差を国が助成する制度の認定を受けました。「グリーン水素パーク-白州-」で製造される年1607トンのグリーン水素は2028年から15年間にわたり「価格差支援制度」の対象になります。

ホテルや観光施設で水素を活用する日も近い！



山梨県が進める「多文化共生保育」。
文化や言語の異なる子どもが
日常的に触れ合い、違いを受け入れながら
成長できる環境をつくります。
その最前線の保育現場を訪問しました。

「オー！マイガッツ！」

ある園児がそう口にする、周
りの子どもが「かっこいい！」と
まねをし始めました。甲府市の南
西保育園では、日本人の園児が自
然と外国の文化になじむこんな光
景が珍しくありません。全園児約
100人のうち、20人以上が外国
にルーツを持つからです。

口コミが広がり、毎年ベトナム
やフィリピンなどさまざまな国の
子どもが入園します。それが園
の特色だと気付いたのは最近のこ
と。加藤真紀子園長は「ほかの園
も似た状況かと思っていた」と振
り返ります。「外国にルーツがあつ
ても、日本人でも、子どもへの対
応は変わりません。ベースは『保
育』という仕事」という理念で受
け入れを続けています。

園は「いろいろなことを少しず
つ体験させる」方針を掲げます。
4・5歳児クラスは毎年夏祭りで

和太鼓を披露し、5歳児は月3回
習字を練習するなど、楽しみなが
ら日本の文化に触れます。一方で、
世界の文化を知る機会として、今
年から各国の料理を給食で提供す
る企画も始めました。これまでに
ポーランドや韓国料理が出された
そうです。取材した日にはフィリ
ピンの料理が並び、園児たちはバ
ナナ春巻きなどを食べて「おいし
い！」と笑顔を見せました。

「子どもの間に、国の垣根や特別
な意識は全くないようで、みんな
で一緒に遊ぶのが普通です。言葉
が違ってもすぐに仲良しになれま
す」と加藤園長は話します。入園
から数年で多くの子が日本語を話
せるようになります。

日本語が話せない保護者とは、
翻訳機やスマートフォンなどを使
いながらやり取りします。文化や
宗教の違いに戸惑う場面もあると
打ち明けつつ、加藤園長はこう語
ります。

違いを“特別”にしない 「多文化共生保育」の 最前線

護者は直してくれます。悪気が
あつたわけではなく、日本の文化
を知らなかっただけなんです」

ただ、県内の園が全て南西保育
園のように環境を整えているわけ
ではありません。県の実態調査で
は、多くの園が受け入れに前向き
な一方で、「人員が足りない」「保
護者とコミュニケーションがうま
く取れず、不安がある」という課
題も挙がりました。

県は2023年度から多文化共
生保育を推進しています。県内の
在留外国人数が増え続ける実態
を受けて、今年度から全県展開に
向けた指針作りや、コーディネー
ターが各園を訪ねて相談に乗る訪
問支援を始めました。

南西保育園や、中央市にある小
規模保育園「みんなのいばしょ」
は、外国にルーツのある子どもを
多く受け入れてきました。これら
の施設を「モデル園」として、日
本語教育にも力を入れる予定で
す。子どもが小学校で「言葉や文
化の壁」にぶつかることがないよ
う、保護者を対象に「小学校進
学ガイド」も実施します。



南西保育園を訪問した日にはフィリピンの料理が給食に出されていた



バナナ春巻き
おいしいね！



「どちらかと言えば受け入れたくない」、
「受け入れたくない、または受け入れできない」と
答えた80園が挙げた理由(複数選択)

保護者との意思疎通に不安がある……	50園
日本語支援や通訳等の体制が整っていない……	49園
外国にルーツを持つ子どもを含む、特別な 配慮を要する子どもへの対応体制が十分でない……	34園
職員数が不足している…	30園
現時点では受け入れを想定していない……	16園
過去の受け入れにおいて 対応に困難があった……	15園
自園の教育・保育方針との 適合に懸念がある……	9園

子どもの可能性を 閉ざしてはいけない

統括コーディネーター

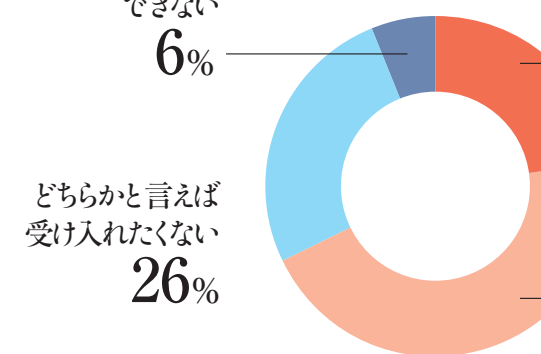
一般社団法人
多文化リソースセンター
やまなし代表

加藤 順彦さん

今年度からコーディネーターとして園を回るようになって、「プッシュ型の訪問支援」の必要性を実感しています。事前に電話でヒアリングした時には「困っていない」と答えた園も、実際に訪ねてみると文化や習慣の違いによる悩みを持っていることがあります。

課題の一つが「言語の壁」です。だから、小学校に入る前の未就学児にこそ日本語教育が必要なんです。2歳児や3歳児だって、ちゃんと日本語を理解しますし、日本の子どもも外国の子どもと一緒に遊んでいくうちに相手の言葉をまねて理解するようになる。子どもにはいくらでも吸収する能力があります。私たちがその可能性を閉ざしてはいけない。50年先の未来を見越して、今から環境を整えることが大切です。

外国にルーツを持つ
子どもの
受け入れについて



を深める場もつくります。
もう一つは、専門家による「プッシュ型の訪問支援」です。外国にルーツのある子どもを受け入れる保育園を運営する「一般社団法人多文化リソースセンター」や「まなし」の加藤順彦さんがコーディネーターに就任し、今年5月から動き始めました。
直接保育の現場へ出向き、各園の悩みや課題を聞き取って助言します。
園からは「文化の違いで、下着を着ずに登園する」「宗教上の理由で給食を食べられないとき、お弁当をお願いしたけれど忘れてしまう」といった悩みが届きます。コーディネーターは「失礼になるのでは、とためらってははいけません。

山梨県で暮らす、外国ルーツの子どもは年々増えています。法務省の統計をもとに県が集計したデータによると、2025年12月末時点で県内に住む0～5歳児は702人。国籍はベトナム、中国、ブラジルなど31カ国に広がります。

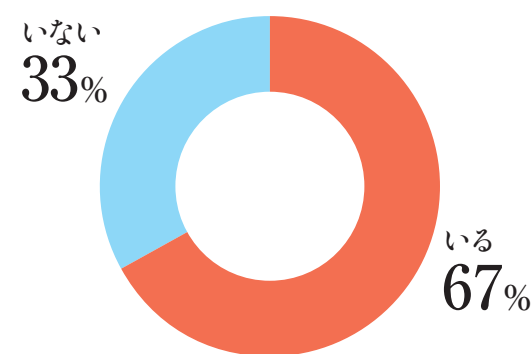
ん。子どもの安全や健康に関わることは、はっきりと伝えることが重要です」と助言するそうです。
現場の負担を増やさない工夫も重ねます。職員研修や翻訳機の購入などに使える補助金を今年度から用意しました。また、コーディネーターのもとで多言語の「日本の学校生活ガイド」の冊子も作りしました。これは京都府国際センターが9カ国語でホームページに公開していたものを、山梨県が少数言語を加えて15カ国語に増やして印刷したもの。今後は外国人保護者向けの進学ガイドで配ったり、コーディネーターが必要な園へ届けたりします。
上記データは、県が今年度実施した「保育所等における多国籍園

児等の実態調査」の結果です。多くの園が受け入れに前向きな一方で、言葉の壁や情報の不足に悩む現場も見えてきます。一つひとつの「困った」に寄り添いながら、違いを豊かさに変える社会の実現を目指します。



南西保育園では国籍にかかわらず園児が仲良く過ごしている

外国にルーツを持つ
子どもがいますか

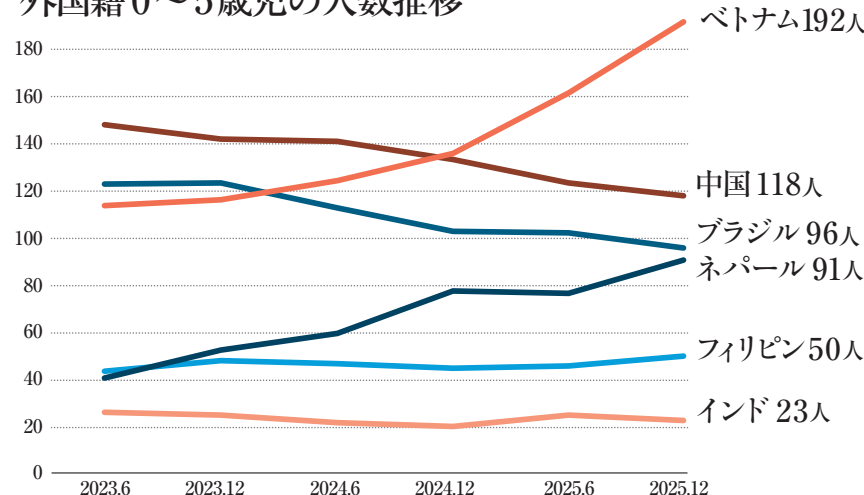


こうした実情を背景に、県は「多文化共生保育」を推進しています。子どもが文化や言葉の違いを受け止め、互いを尊重しながら育っていく環境をつくり、外国人保護者が孤立せずに安心して子育てできます。

今年度の事業の柱は二つ。一つは研究会の開催です。県内全域の保育現場でスムーズな受け入れを進めるための指針を策定します。保育士や幼稚園教諭向けの研修会も開き、多文化共生社会への理解

る地域を目指します。

外国籍0～5歳児の人数推移



「多文化共生保育」を支える伴走の仕組み

「多文化共生保育」は、外国にルーツを持つ人々と地域社会をつなぐ重要な役割を果たします。日本人の子どもにとっても、国際性を身につける貴重な経験です。実態調査のデータとともに、県が進める具体的な取り組みを紹介します。



山梨緑化100年構想！

明治神宮の今昔

東京・原宿にある明治神宮の境内の森は、別名「永遠の杜」と呼ばれています。実は、この永遠の杜は人工的に造られた森であることを、県民の皆さんはご存じですか？

東京の「100年先」を見越した専門家たちが力を合わせ、植栽を決意します。全国から約10万本の木が奉納され、延べ11万人以上のボランティアが森を造る活動に参加。明治神宮の創建と同じ1920年に完成しました。

人の手で始まり、時間をかけて自然を造りあげてきた明治神宮の在り方は、山梨を目指す緑化構想にも通じるヒントといえそうです。



1912

現在の原宿駅北口から南方を望んだ風景



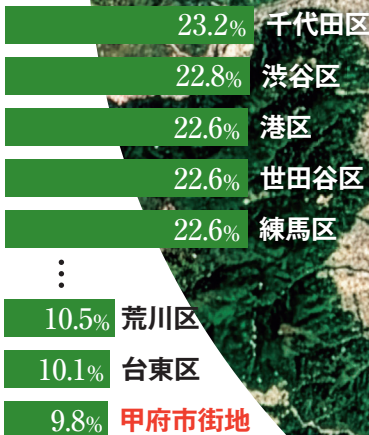
2015

100年が経過して、木々は太木に育ち豊かな杜となった

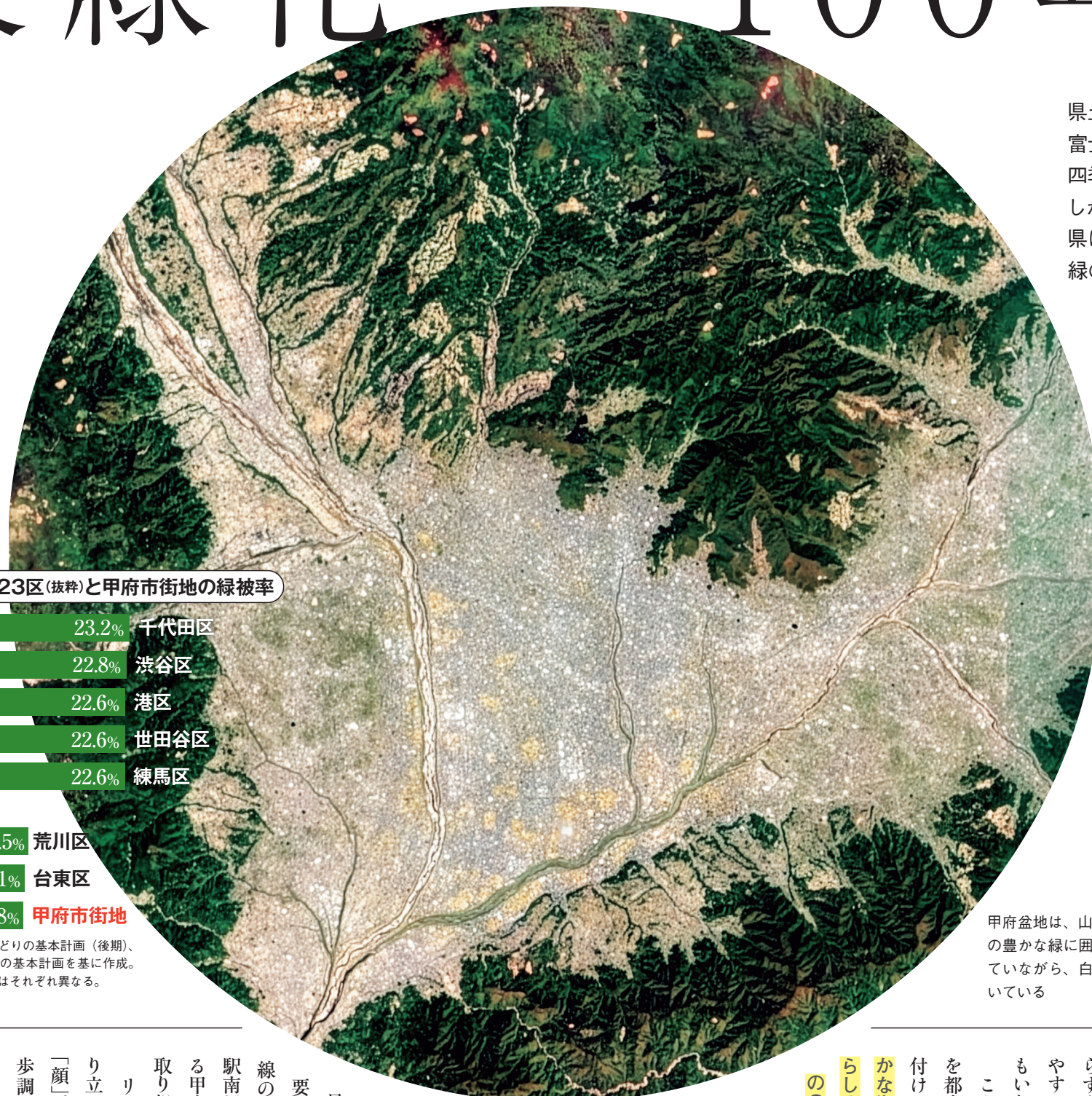


明治神宮への「表参道」は、ケヤキ並木の木陰を多くの人が行き交う付加価値の高い街になった

東京23区(抜粋)と甲府市街地の緑被率



江東区みどりの基本計画（後期）、甲府市緑の基本計画を基に作成。調査年度はそれぞれ異なる。



甲府盆地は、山梨県の豊かな緑に囲まれていて、白く乾いている

県土の78%を森林が占める山梨県。

富士山や南アルプス、八ヶ岳などの名峰に囲まれ、四季折々に表情を変える美しい自然が広がっています。

しかし、市街地は意外に緑が少ないというデータがあります。

県は、「山梨緑化100年構想」を取りまとめ、

緑の力を山梨のまちづくりに生かしていこうとしています。

市街地の緑は少ない？

甲府市の市街地における緑被率（土地面積のうち緑が占める割合）は東京23区と比較すると下位にあるというデータがあります（左の表参照）。さらに、都市計画区域内（計画的な街づくりを行うために都市計画法に基づいて指定しているエリア）の県民一人あたりの公園面積は11.7㎡（全国32位）と、全国平均の12.9㎡を下回っています。

周囲にはたくさん自然がある

緑化の効果

近年、気候変動による気温上昇が続いています。日本全体では、1898年～2025年の間に約1.44℃気温が上昇しました。甲府市では、約2.3℃上昇しています。

にもかかわらず、多くの県民の皆さんが日々を暮らす市街地に限って言えば、山梨県は他の都道府県と比較して緑が少ないのです。

緑には日射を遮る「遮光（遮蔽）効果」や、葉から水分を蒸発させる「蒸散作用」によって周囲の気温上昇を抑える働きがあります。年々上がり続ける気温対策の一つとして、緑を有効活用しない手はありません。

さらに、緑には心と体を整える力があるといわれています。うつ病の治療に自然との触れ合いを取り入れたところ、多くの患者が効果を実感したという研究報告があります。また、緑豊かな環境で暮らす人ほど、街への愛着や暮らしやすさを強く感じる傾向もあるともいわれています。

こうしたことから、欧米では緑を都市の「インフラ」として位置付ける動きが進んでいます。緑豊かな街並みは、人を引きつけ、暮らしの質を高め、そして街そのものの価値を押し上げます。

現代において、緑は単なる景観ではなく、人々の心身の健康を支え、街の魅力を高める「基盤」なのです。

リニアが拓く、新たな山梨らしさ

「山梨緑化100年構想」が見据えるビジョンにおいて重要なものとなるのが、リニア中央新幹線の山梨県駅（仮称）です。現在、駅南側エリアのまちづくりを進める甲府市でも、緑をコンセプトに取り組みが進められています。

リニア開業後、多くの人が降り立つこの場所は、いわば山梨の「顔」。そのため、県では甲府市と歩調を合わせながら、駅前エリアの緑化について構想に位置付けるべく検討を進めています。ここに緑あふれる空間が生まれることで、訪れる人にも、暮らす人にも、「豊かな山梨」のイメージを強く印象付けるような、象徴的な拠点になることでしょう。

駅を核として、県全体へと緑を広げていく。100年後、山梨県が「現代の桃源郷」としてのブランドを確立していくための取り組みが、始まります。11月にはシンポジウムの開催も予定しており、今後の動きにぜひご注目ください！

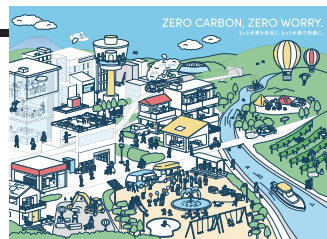
未来を
懸念に志す
県民インタビュー

「連載」

山梨県人

水素でスイスイ走る

日邦プレジジョン社が描く「未来の水素社会」のイラスト(同社提供)



小型の燃料電池を積んだ自転車
が、スイスイと走る。ペダルをこ
ぐ足に力を込めた瞬間、モーター
がすっとアシストする。この燃料
電池電動アシスト自転車の試作機
が完成披露されたのは、2021
年だった。山梨大学と山梨県など
産学官が連携して2018年から
始まった水素エネルギー・燃料電
池の社会実装プロジ
エクト「FCyFINE
(エフシーファイン)
プロジェクト」の成
果だ。100ワット
の燃料電池を積んだ
この試作機の開発に
携わったのが、日邦



開発中の中型燃料電池発電機。赤色の高圧水素容器から水素を注入して発電する

水素燃料電池は 暮らしを 変えるか？

日邦プレジジョン株式会社専務執行役員
佐藤幸徳

水素を使った燃料電池の開発に挑み続けている技術者がいる。身近な製品を世に出そうと、電動アシスト自転車の開発も手がけた。その挑戦が規制の壁にぶつかっても、立ち止まることはない。小型発電機の開発、そして将来の水素社会を見据えた次の世代への技術の継承。気がつけば、水素と付き合い始めて8年が経とうとしている。

HISTORY

1999

北杜市(旧北巨摩郡武川村)に生まれる

1974

峡北高校(現北杜高校)卒業、
山梨大学工学部電気工学科進学

1999

日邦プレジジョン株式会社入社

2016

FCyFINEプロジェクトに参画し、燃料電池及び
燃料電池電動アシスト自転車の開発に着手

2020, 24

山梨県・山梨大学開講の「水素・
燃料電池産業技術人材養成講座」受講



佐藤さんは約20人の燃料電池開発チームを率いている

気のことが気になって仕方にな
った。村から東京の秋葉原電気街
まで出かけて、電子部品を買い付
けに行った経験もあるという。大
学の専攻も、自然と電気工学を選
んだ。
卒業後に入社した会社の仕事が
減り、大学の恩師に転職の相談に
行った。恩師から「甲府の酒屋の
次男坊が工場を建てて何か作ら
しい。行ってみないか」と紹介さ
れた先がPNPだった。佐藤さん
は「その『次男坊』の兄というのが
偶然私の飲み仲間で、びっくりし
ました」と不思議な縁を語る。今

将来の水素社会を 見据えて

でこそ韮崎市に大きな社屋と研究
棟を構えるPNPだが、佐藤さん
が入社した1986年当時、古屋
賞次社長(現会長)と数人の社員
が二階建ての社屋で働く小さな会
社だった。会社が発展し、古屋さ
んと佐藤さんの夢も次第に膨らん
でいく。「自社ブランド品を世に
出したい」と目標に据えたのが、
水素燃料電池の開発だった。

次なる挑戦、 発電機に見出した 可能性

燃料電池自転車は、規制の壁に
ぶつかり開発は中断している。そ
こで、佐藤さんたちが取り組んで
いるのは500ワットの中型燃料
電池発電機だ。100ワット程度
の小型機に比べて、500ワット
であれば工事現場やイベント会場
など、より実用的な場面での活用
が見えてくる。工事現場では信号
機や照明の電源として、イベント
では、ガソリン発電機に代わるも
のとして期待されている。

佐藤さんは昨年の夏、祭りでに
ぎわう甲府市の春日通りに50台ほ
ど並んだキッチンカーを一台一台



夜になると社屋のPNPのロゴの周りを星型に彩るプロジェクター投影。この動力源は燃料電池発電機だ(同社提供)

訪ね歩いた。「ガソリン発電機は
匂いもあるし、何より音がうるさ
くて……」どの店主からも、似た
ような本音がこぼれた。佐藤さん
はキッチンカーの製作工場にまで
足を運んで、現場のニーズを聞き
取った。

いま佐藤さんは、静かでクリー
ンな燃料電池が暮らしのすみずみ
に行き渡る未来を思い描く。実証
で得た技術と、講座やOB会を通
じてつながった人の輪を頼りに、
次の一步を踏み出そうとしている。

表紙のヒトたち



水素の未来にワクワク 高校生が 米倉山の施設見学

米倉山（甲府市）の電力貯蔵技術研究サイトや次世代エネルギーPR施設「きらっと」を見学したのは県立白根高校の皆さんです。職員から再生可能エネルギーの説明を受けて、来たるべき水素社会について学びました。表紙の藤岡莉央さんと保坂勇維さんは、「やまなしモデルP2Gシステム」に興味津々の様子でした。



やまなしの魅力は もっともっとあるはず！

「ふれあいスクエア」では、県民の皆さんからの写真を募集しています。わが街の自慢のスポット、不思議と心躍る場所、移ろう季節を切り取った一枚……などなど、撮影したときのエピソードを添えて、ぜひ教えてください。また、県の取り組みについての質問もお待ちしております。

こちらから
どうぞ！



山梨県公式
LINEアカウント

友だち登録すると
写真を投稿できます。



ぶどうもも

レトロ看板

勝沼ぶどう郷駅で見つけた「かつぬま朝市」の案内板。どこか懐かしさを感じるデザインに引かれ、撮影しました。描かれているのは山梨を代表する8つの果実「甲州八珍果」です。意外と知らない方も多いのでは？



天空かぼちゃ

デラウェアの棚の隅から、今年もかぼちゃが生えて来て、天空かぼちゃが実りました。我が家だけでは食べきれず、ご近所にもお裾分け。うまく保存すれば一年中楽しめます。



ぼちやかぼちゃ

山梨大好き



白熱ダンスバトル

散歩中、防災新館県民広場（甲府市）でひとだかりを発見。ブレイキンのチームバトルが勃発していました。初めて間近で見る技は、人間離れしていて圧巻でした。



よこ

夏の信玄堤

子どもと信玄堤で昆虫採集をしました。心地よい風が吹き、木陰では涼しさを感じました。バッタやトンボなど多くの昆虫を見つけ、親子で楽しい時間を過ごしました。



MURAI
F U R E A I
SQUARE

ふれあい
スクエア

PHOTO SPACE

あなたが撮った写真を
「ふれあい」に掲載しませんか？
皆さんのとおきのおきの1枚、
お待ちしております！



水素くん

水素で 近未来体験

3月に甲府駅前の広場で「やまなしミライエネルギーフェス」をやっていました。水素を使った車両やブースが展示されていて、近未来を体感できました。



水族館でお寿司?!

「お寿司屋さんがある!」と思ったら、じつは「富士湧水の里水族館」（忍野村）の展示でした。来館者を楽しませる工夫が随所にあり、大人も子どもも楽しめる魅力的な水族館です。



ほんた

Q & A SPACE

皆さんから寄せられた県政に関する
疑問・質問にお答えするこのコーナー。
今号の質問は、こちらです。

Q

「世界の森
やまなし」は
どんな場所ですか？



お答えします

県有林課
技師

寄特なな子

2023年、富士山麓にオープンした
国際交流の拠点です。
世界各国の人が訪れ、
植樹活動を通じて交流を深めています。

Q なぜ植樹なのですか？

この場所はもとアカマツ林で、伐採・更新の時期を迎えていました。この機会を活かし、多くの国の人々に植樹に参加してもらいながら豊かな森林を次世代に引き継いでいきます。



2025年、中国・四川省（上）、2023年、韓国忠清北道姉妹締結30周年青少年交流事業（下）の植樹風景

Q どのような
国際交流がありましたか？

2026年6月にインド・バラナシ県の住民など約20人が来訪し、ヤマザクラ、イロハモミジ、ミズナラを5本ずつ、計15本植樹しました。木を植える機会が少ないインドの方々には新鮮な体験となり、富士山を背景に記念撮影をするなど喜ばれました。

インド・バラナシ県住民訪問団が植樹する様子



Q 一般の人も
利用できますか？

はい、利用できます。柵などはなく、基本的にいつでも入れる開放されたフィールドです。ウッドチップの遊歩道やトイレが整備されており、散歩コースとしても利用されるなど、誰でも自由に楽しめる場所になっています。



富士山を背景に植樹した木が並ぶ

01

魅力発信

県ゆかりの
関係者が集結
ビジョナリーズ・
ユニットも始動

県 は7月14日、県にゆかりのインフルエンサーなど約100人を招き、交流イベント「#やまなしミートアップ」を都内で開催しました。

イベントでは、県の最新情報を紹介するブースを設置したほか、県産食材を使った料理やお酒を提供。県が任命した名誉桃ソムリエによるモモのアレンジ料理も披露されました。

また、SNS で大きな影響力を持つ28人を新たに「やまなし大使ビジョナリーズ・ユニット」に任命。代表として、つばきファクトリーの河西結心さんが長崎知事から委嘱状を受け取りました。他にもTikTokで462万人のフォロワーを持つりゅうとさんや、世界で活躍するVRアーティストのせきぐちあいみさんなどが就任。今後、それぞれの活動を通じて山梨の魅力を発信していただきます。身近な景色や特産品、文化などを発信し、一緒に山梨ファンを増やしていきませんか。



ビジョナリーズ・ユニットに任命された方と長崎知事（中央右）



ユニットメンバーはこちらから



県政情報をPRするブースが設置された＝赤坂プリンスクラシックハウス（東京都千代田区）

02

ブランド

英国老舗百貨店
バイヤーら来県
県産果実の
輸出拡大に期待

農 畜水産物の海外への販路拡大と山梨ブランドの認知度向上を目指し、県は7月28日から29日にかけて、日本貿易振興機構（ジェトロ）山梨と協力して英国の老舗百貨店ハロッズのバイヤーや輸入・卸売事業者を本県に招待しました。

訪問団は県庁を訪れたほか、モモ・ブドウ農家で果実の食べ比べや栽培現場の見学を行い、生産者やJAフルーツ山梨、JA ふえふきの関係者と意見交換をしました。

産地を訪れてもらうことで、生産者が匠の技を駆使して県産果実を生産していることや、県産果実づくりに対する生産者のこだわりや思いを知っていただくことができました。

県産のモモやブドウなどは、令和6年から本格的に英国への輸出が始まっており、今回の交流を通じてさらなる販路拡大が期待されます。今後も県産果実の魅力を世界へ発信し、一人でも多くの人に届けていきます。ぜひ皆さんも味わって応援してください。



県関係者との意見交換



サンシャインレッドの生産者を訪問

インドとの交流を 未来の力に

7月に発表された日印首脳共同声明に、山梨県とインドのウッタル・プラデーシュ州との交流や、本県が提唱する「日印友好交流促進知事ネットワーク」が明記されました。

このネットワークは複数の自治体や企業が連携し、幅広い分野で交流を深める取り組みです。これまで積み重ねてきた活動が高く評価されたものと受け止めています。

8月には、本県を中心に自治体や企業など200人を超える訪問団でインドを訪問し、水素分野での協力や人材交流、観光振興、青少年交流などについて協議を行い、今後の連携強化を確認しました。

今回の訪問は、単なる友好交流ではありません。企業の海外展開や人材確保、観光誘客、将来を担う人材育成など、山梨の未来につながる重要な訪問です。今後も交流を着実に発展させ、その成果を県民の皆さまの暮らしや地域の発展につなげてまいります。



Kotaro Dialogue

光回線サービスの 電話勧誘に注意



光回線サービスの電話勧誘に関する相談が寄せられています。「突然の電話で契約中の事業者だと思い込まされ、別の事業者と契約してしまった」「料金が安くなると思って契約したら、知らないオプションが付いていて高くなった」などのトラブルが発生しています。

トラブルを防ぐポイント

- 必ず事業者名とサービス名を確認しましょう。
- 電話があった日に契約せず、説明書面を受け取り、内容をよく確認しましょう。
- 契約後にキャンセルしたい場合は、できるだけ早く事業者へ申し出ましょう。

困ったら下記にご相談ください。

山梨県県民生活センター

☎ 055-235-8455

消費者ホットライン

☎ 188（いやや）※全国共通

（最寄りの市町村や県の消費生活相談窓口をご案内します）



県民生活センターでは、ホームページなどで消費者トラブルを未然に防ぐための情報を発信しています。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



遠赤外線熟成 有機黒ニンニク(80グラム)

商品提供: HAKUSHU FARM
〒408-0316 山梨県北杜市白州町鳥原383 / TEL 090-1774-7352



Instagramはこちら

ふれあいは
英語と中国語でも
読めます。

FUREAI is also available in
English and Chinese.
FUREAI 还有英文和中文版。



県政情報発信中



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

読者プレゼント

抽選で
8名

アンケートに 答えて応募しよう!

次の①～⑤とアンケートにご回答ください。
応募は「はがき」または「応募フォーム」でお願いします。
①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
※応募は1人1回限り。

アンケート

問1: 今号の中で最も関心を持った内容とその理由は?
問2: あなたが行ってみたい国と、
その理由を教えてください。

※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

応募先

山梨県広聴広報グループ
「ふれあい読者プレゼント」係
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1



応募フォームはこちら

<https://forms.cloud.microsoft/r/K990XsAg6T>

締め切り **10月31日(土)** 当日消印有効

商品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。
個人情報商品の発送のほか、県からのお知らせなどのために、
使用させていただくことがあります。

「おいしい未来へ やまなし」については、
県ホームページをご覧ください。

おいしい未来へ やまなし

検索